



TITLE:

陰嚢内の血管腫・リンパ管腫混合型の1例

AUTHOR(S):

伊藤, 康久; 藤本, 佳則; 徳山, 宏基; 酒井, 俊助; 西浦, 常雄

CITATION:

伊藤, 康久 ...[et al]. 陰嚢内の血管腫・リンパ管腫混合型の1例. 泌尿器科紀要 1983, 29(4): 447-450

ISSUE DATE:

1983-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/120148>

RIGHT:

陰嚢内の血管腫・リンパ管腫混合型の1例

岐阜大学医学部泌尿器科学教室（主任：西浦常雄教授）

伊藤 康久・藤本 佳則・徳山 宏基

酒井 俊助・西浦 常雄

A CASE OF A SCROTAL HEMO-LYMPHANGIOMA

Yasuhisa ITO, Yosinori FUJIMOTO, Hiroki TOKUYAMA,

Shunsuke SAKAI and Tsuneo NISHIURA

From the Department of Urology, Gifu University School of Medicine, Gifu, Japan

(Director: Prof. T. Nishiura, M.D.)

A nineteen-year-old man with a painless tumor in the right scrotal area was seen at our Department. The scrotal mass had been noticed from his childhood. The tumor was 8.2×5.2×5.0 cm weighed 47.3 g. Histological examination revealed hemo-lymphangioma.

Key words: Hemo-lymphangioma, Scrotum

陰嚢内の血管腫およびリンパ管腫は、きわめて稀な良性腫瘍である。われわれは、最近、陰嚢皮下組織より発生したと考えられる血管腫・リンパ管腫の混合型の1症例を経験したので、若干の考察を加えて報告する。

症 例

患者：K. M., 19歳，男性，会社員

初診：1982年6月29日

主訴：右陰嚢部の無痛性腫瘍

家族歴・既往歴：特記すべきものなし

現病歴：幼児期より右陰嚢部の腫瘤に気付くも放置した。1982年4月頃より腫瘤が増大してきた。

現症：体格・栄養は中等度。陰茎は仮性包茎。左陰嚢およびその内容は正常。右陰嚢内に、母指頭大・弾性硬で透光性を有する腫瘤と、暗青紫色・くるみ大の弾性軟で、一部陰嚢皮膚と癒着している腫瘤を認め、両者は癒合していた。右睾丸・副睾丸・精索は、腫瘤と連続性はなく、正中側へ圧排されていた (Fig. 1)。

入院時検査成績：尿所見：蛋白(－)，糖(－)，沈渣異常なし。血液所見：赤沈 30分値 1 mm，1時間値 3 mm，白血球数 4,600/mm³，赤血球数 457×10⁴/mm³，Ht 39.6%，Hb 14.3 g/dl，血小板数 26.2×10⁴/mm³，出血時間 2分30秒，凝固時間 17分30秒，血漿フィブリ

ノーゲン 157 mg/dl，FDP (－)，CEA 1.42 ng/ml，AFP<200 ng/ml，T. P. 6.7 g/dl，GOT 19 IU/l，GPT 11 IU/l，BUN 16.1 mg/dl，クレアチニン 1.0 mg/dl。

手術所見：1982年7月22日，硬膜外麻酔のもとに，陰嚢縫線に沿って約6 cmの皮切を加えると，皮下から総鞘膜にかけて，母指頭大の嚢胞をともなった暗赤紫色の腫瘍が認められた (Fig. 2)。腫瘍のみの摘除に努めたが，陰嚢皮膚との癒着が強度なため，一部陰嚢を含めて切除した。摘出標本は，重さ 47.3 g，大きさ 8.2×5.2×5.0 cm であった (Fig. 3)。嚢胞内には，5.8 mlの黄色透明なリンパ液様の液体を認め，鏡検で，赤血球・白血球・細菌ともに陰性。細菌培養も陰性であった。貯留液中の電解質は，Na 146 mEq/l，K 8 mEq/l，Cl 106 mEq/l であった。

組織所見：皮下組織に，不整に拡張した毛細管とリンパ管を認める，血管腫・リンパ管腫の混合型であった (Fig. 4)。

考 察

陰嚢皮下組織に発生する血管腫とリンパ管腫は，ともに稀な疾患であり，血管腫は Robert¹⁾(1851)の第1例に始まり約40例²⁾，本邦でも岩崎(1958)の報告以来，10例の報告がある (Table 1)。またリンパ管

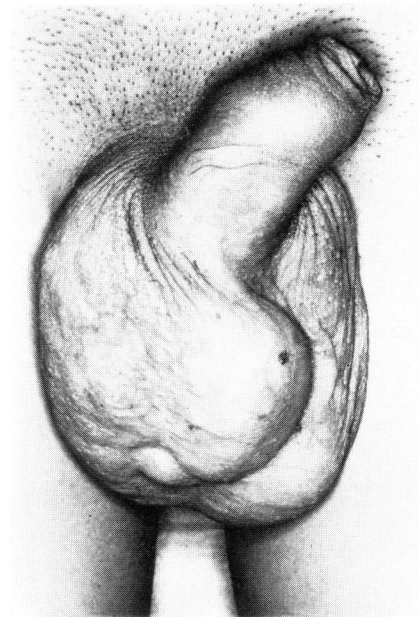


Fig. 1. 外陰部の外観：右睾丸・副睾丸は腫瘍により正中に圧排されている

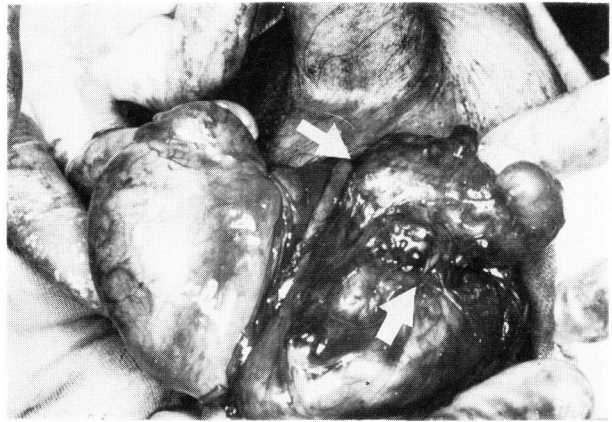


Fig. 2. 手術時所見：腫瘍(矢印)は、精索・睾丸(向って左側)とは別に存在している

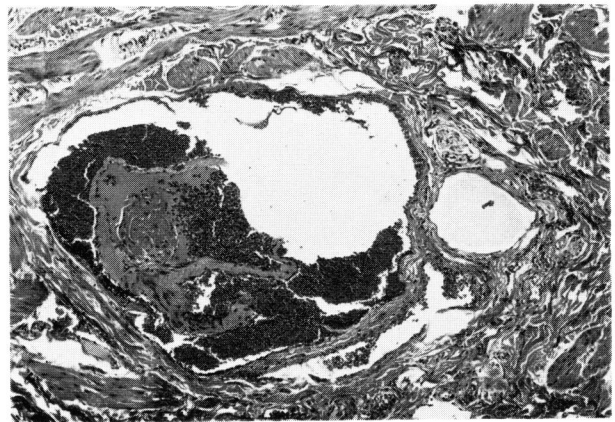


Fig. 3. 摘除標本

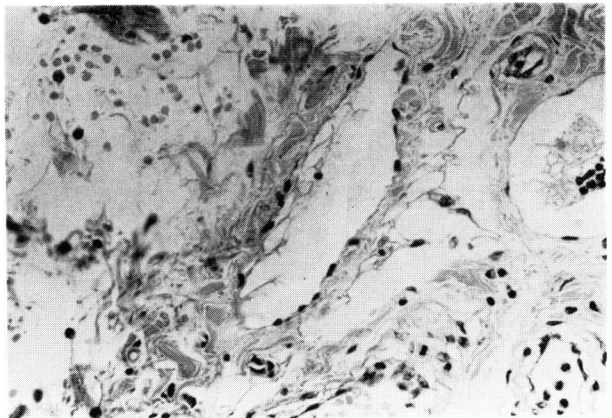


Fig. 4.

腫も約20例の報告があるにすぎない³⁾。しかし、血管腫とリンパ管腫の混合型は、1966年宮川⁴⁾の報告が第1例で、自験例が本邦第5例目である (Table 2)。

血管腫とリンパ管腫は、ともに先天性の疾患で、本邦での発症年齢は、血管腫が2歳から56歳までで、平

均19.2歳、血管・リンパ管混合腫が2歳から21歳までで、平均13歳と、ほとんどが30歳未満である (Fig. 5)。しかし、腫瘍の存在に気付いてから数年後に受診した例も数例あり、実際には、かなり年少の時期に認められているものと思われる。

Table 1. 陰嚢内血管腫（本邦報告例）

No.	報告者	発表年度	年齢	患側	大きさ (cm)	重量 (g)	圧痛・疼痛
1	岩 崎	1958	37	左	?	?	(+)
2	中 野	1965	10	左	母指頭大	?	(+)
3	中 神	1968	14	右	2.0×1.8×1.2	5	(+)
4	塚 田	1973	14	左	小児頭大	200	(-)
5	平 田	1973	27	左	1.2×1.0×1.0	2	(-)
6	金 森	1975	56	左	3.7×3.0×3.5	25.5	(-)
7	大 沢	1976	12	左	3.1×2.7×1.5	9	(-)
8	横 山	1976	4	左	2.0×1.1×1.3	?	(+)
9	日江井	1978	16	左	小児頭大	280	(-)
10	仲 田	1980	2	左	5.8×4.2×1.5	7.5	(-)

Table 2. 陰嚢内血管腫・リンパ管腫の混合型（本邦報告例）

No.	報告者	発表年度	年齢	患側	大きさ (cm)	重量 (g)	圧痛・疼痛
1	宮 川	1966	21	右	10×5×5	45	(+)
2	阿 部	1971	18	左	くるみ大	?	(-)
3	梶 本	1972	2	右	くるみ大	28	(-)
4	江 尻	1976	5	右	3.0×2.0×2.0	6	(+)
5	自験例	1982	19	右	8.2×5.2×5.0	43.7	(-)

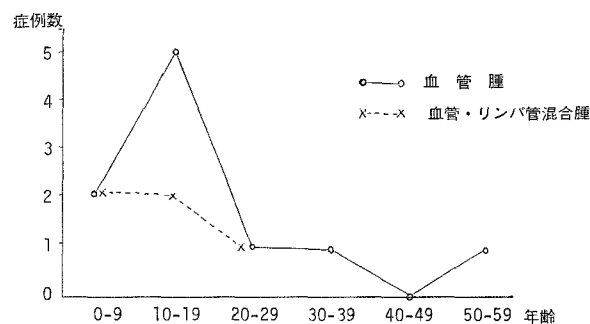


Fig. 5. 陰嚢内血管腫および血管・リンパ管混合腫の年齢分布

発生側は、血管腫では左側が10例中9例と、左側に多く、血管・リンパ管混合腫では右側が5例中4例と、右側に多い傾向が見られるが、血管腫では左右差は認めないという Cooper らの報告もある²⁾。

主訴は、血管腫、血管・リンパ管混合腫ともに無痛性陰嚢内腫瘍であることが多いが、圧痛・疼痛を伴うこともあり、血管腫10例中4例に、また血管・リンパ管混合腫5例中2例に圧痛もしくは疼痛を認めている。

診断は、皮膚の青色様変化を伴う陰嚢内腫瘍を認めれば、血管腫の可能性が考えられ²⁾、透光性の陰嚢内腫瘍と認めれば、リンパ管腫の存在も考慮すべきである。

治療は腫瘍摘除術が一般的で²⁾、腫瘍と腫瘍の表面をおおっている皮膚も含めて切除する必要がある²⁾。完全に取りきれないと、再発・リンパ漏などがおこる

こともある。

予後は、血管腫、血管・リンパ管混合腫ともに良好で、悪性化した症例は、文献上見られていない。

結 語

右陰嚢内の無痛性腫瘍を主訴とした19歳、男性の陰嚢内血管腫・リンパ管腫混合型の1例を報告し、若干の文献的考察を加えた。

本論文の要旨は、第137回東海地方会で発表した。

文 献

- 1) Robert, in Boullay : Bull. Soc. anat. de Paris 26 : 194, 1851
- 2) Biswamay I et al: Hemangioma of scrotum,

- Urology **8**: 502, 1976
- 3) Mulcahy JJ et al: Lymphangioma of scrotum. Urology **14**: 64, 1979
 - 4) 宮川光生・ほか: 陰囊皮下組織より発生した血管・リンパ管混合型の1例. 泌尿紀要 **12**: 1129, 1966
 - 5) Cooper TP et al: Hemangioma of the scrotum.: a case report, review and comparison with varicocele. J Urol **112**: 623, 1974
 - 6) 日江井鉄彦・ほか: 陰囊血管腫の1例. 泌尿紀要 **27**: 111, 1981
 - 7) Eastridge RR et al: Hemangioma of scrotum, perineum and buttocks. Urology **14**: 61, 1979
 - 8) 岩崎孝史: 陰囊血腫を起した陰囊内血管腫の1例. 臨床皮泌 **12**: 261, 1958
 - 9) 中野欣也: 陰囊皮下血管腫. 日泌尿会誌 **56**: 771, 1965
 - 10) 中神義三・ほか: 陰囊血管腫の1例. 臨泌 **22**: 1003, 1968
 - 11) 阿部礼男・ほか: 陰囊皮下血管腫とリンパ管腫の混合型. 日泌尿会誌 **62**: 197, 1971
 - 12) 梶本伸一・ほか: リンパ管腫を伴える陰囊内血管腫の1例. 日泌尿会誌 **63**: 687, 1972
 - 13) 塚田貞夫・ほか: 巨大な陰囊内血管腫例. 手術 **27**: 1173, 1973
 - 14) 平田 弘・ほか: 陰囊内血管腫の1例. 日泌尿会誌 **64**: 611, 1973
 - 15) 金森幸男・ほか: 陰囊内血管腫の1例. 日泌尿会誌 **67**: 287, 1976
 - 16) 大沢哲雄: 陰囊血管腫の1例. 臨泌 **30**: 523, 1976
 - 17) 横山英二・ほか: 陰囊血腫をおこした陰囊内血管腫の1例. 臨泌 **30**: 625, 1976
 - 18) 江尻 進・ほか: 睾丸周囲副腎遺残を伴った陰囊内血管腫・リンパ管腫の1例. 泌尿紀要 **22**: 515, 1976
 - 19) 仲田浄治郎・ほか: 小児にみられた陰囊内血管腫の1例. 臨泌 **35**: 1109, 1981
 - 20) Gueukdjian SA: Cystic hygroma of the groin and scrotum. Brit J Urol **28**: 279, 1956
- (1982年11月17日受付)